

2026年度～2029年度

法政大学

第三期中期経営計画の概要

自由を生き抜く実践知

法政大学総長室

計画策定の背景：4つの社会環境変化

1. 18歳人口の急激な減少

2035年度以降の加速度的な人口減少を見据え、選ばれ続けるための、豊かで発展性のある教育・研究体制の構築と、学生納付金依存を低減する財政基盤の強靱化が急務です。

2. 社会の持続可能性

SDGsの達成や、政府の「2050年カーボンニュートラル宣言」に呼応し、法政大学憲章が掲げる「持続可能な社会の未来への貢献」を積極的に推進する必要があります。

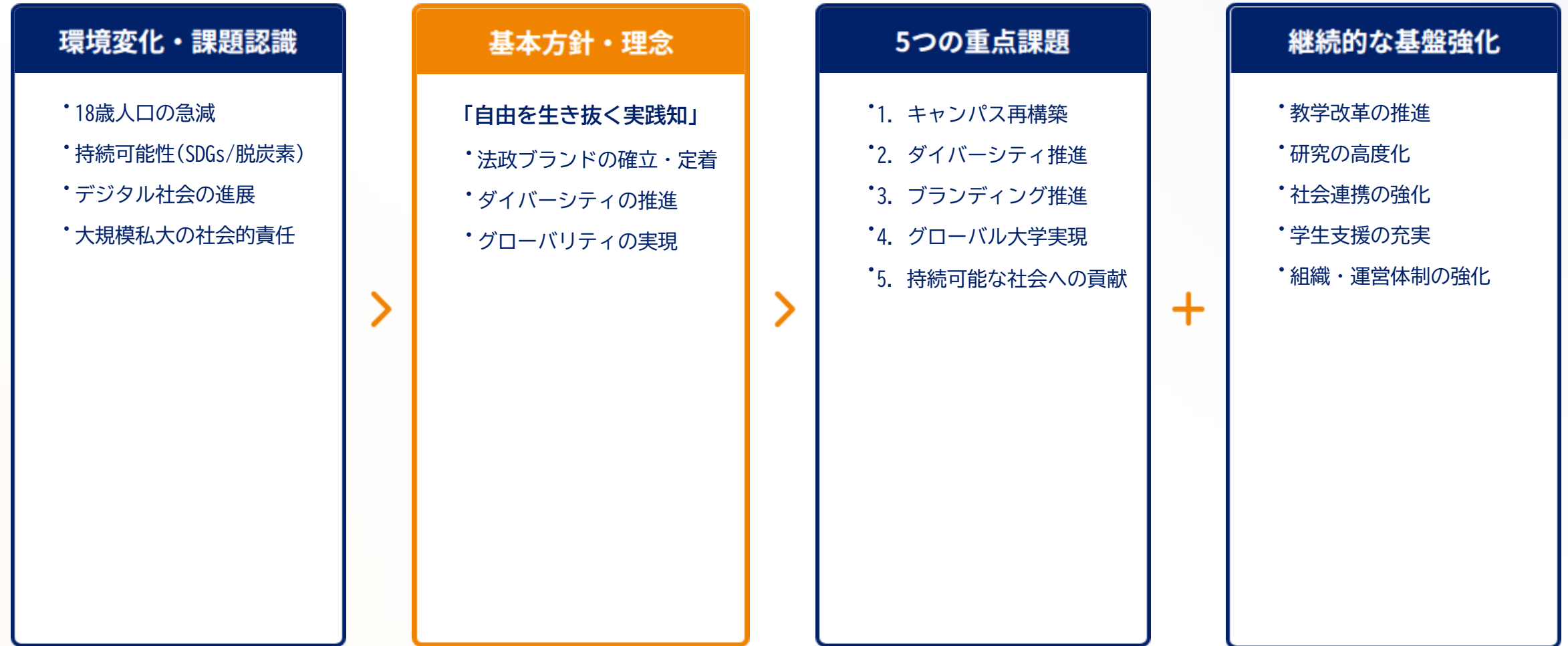
3. デジタル社会と技術革新

知識へのアクセスが容易になる中、生成AI等の技術革新に対応し、個別最適化された学びの実現と、サイバーリスクに対する安全安心なICT環境整備が求められます。

4. 都内大規模私大の社会的責任

日本社会の成熟と人口減少の中、良質な高等教育の提供、世界的研究成果の創出、地方創生・他地域との協力を通じて、教育研究を未来へ発展させる責務を負っています。

計画の概要（サマリー）



重点的に取り組む5つの課題



1. キャンパス再構築

経済学部由市ヶ谷移転、多摩の活性化・魅力化、国際高校の施設更新



2. ダイバーシティ推進

多様性を包摂する環境づくり、多様な背景をもつ構成員が活躍できる支援の強化



3. ブランディング活動

学内外への戦略的発信、創立150周年記念事業を見据えた価値の再認識



4. グローバル大学の実現

全構成員のグローバルマインドセット涵養、多様な文化が共存するキャンパスへの変革



5. 持続可能な社会への貢献

SDGs達成に向けた取り組み推進、2030年代カーボンハーフ達成への脱炭素化の加速

1. キャンパス再構築の実現



「HOSEI2030」が目指すキャンパス再構築に向け、大学・付属校の長期的な発展基盤を確立します。

経済学部和市ヶ谷移転

2030年を目途とした移転の実現へ。教学・学生支援事項の確定と、市ヶ谷キャンパスの施設整備を推進します。

多摩キャンパスの活性化・魅力化

学部間連携の深化。多摩新棟の建設により、郊外型キャンパスの新しいモデルを提示します。

国際高校の施設更新

新校舎建設に着手。21世紀のグローバルシチズンを育成するための新たな教育環境と教学体制を構築します。



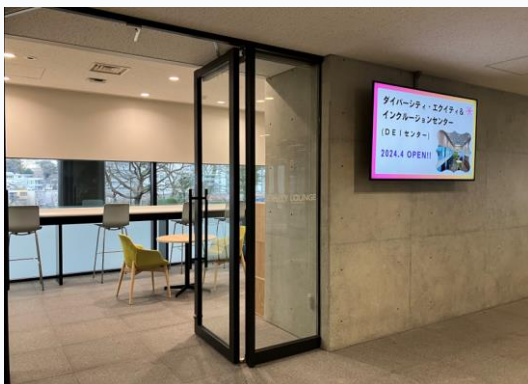
2. ダイバーシティ・男女共同参画推進



多様性を包摂する環境作り

すべての構成員が個性を最大限に発揮できる持続可能な環境を確立します。

- DEIセンターの機能を大学3キャンパスへ展開
- 年間を通じた啓発イベント・研修の実施
- キャンパスのユニバーサルデザイン(UD)対応推進
- グローバリティとの一体的推進体制の強化



多様な背景をもつ構成員への支援

属性の違いに関わらず、安心して活動・活躍できる専門的な支援体制を整えます。

- マイノリティ構成員のための居場所作り・相談体制拡充
- 留学生を含む多様性に配慮した学生交流の促進
- 女性教員比率向上の推進（クリティカルマス30%実現）
- ポジティブアクション実施に向けた本格的検討



3. ブランディング活動の推進



「自由を生き抜く実践知」を核に、大学の真の価値を学内外で共有し、社会的評価を高めます。

インナーブランディング

構成員全員がブランドの担い手である意識を醸成。「自由を生き抜く実践知大賞」等による価値の学内共有。

アウターブランディング

全学的な新戦略の確立。グローバル、理工系、付属校などの特色ある取り組みを戦略的に発信。

創立150周年記念事業（2030年）

本学のこれまでの歩みを振り返り、将来を展望していきます。

法政大学憲章

約束

自由を生き抜く実践知

法政大学は、近代社会の黎明期にあつて、
権利の意識にめざめ、法律の知識を求める
多くの市井の人びとのために、
無名の若者たちによって設立されました。

校歌に謳うよき師よき友が集い、
人びとの権利を重んじ、多様性を認めあう「自由な学風」と、
なにものにもとらわれることなく公正な社会の実現をめざす
「進取の気象」とを、育んできました。

本文

建学以来のこの精神を受け継ぎ、
地球社会の課題解決に貢献することこそが、本学の使命です。

その使命を全うすべく、
多様な視点と先見性をそなえた研究に取り組むとともに、
社会や人のために、真に自由な思考と行動を貫きとおす
自立した市民を輩出します。

地域から世界まで、あらゆる立場の人びとへの共感に基づく
健全な批判精神をもち、
社会の課題解決につながる「実践知」を創出しつづけ、
世界のどこでも生き抜く力を有する
あまたの卒業生たちと力を合わせて、
法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します。

4. グローバル大学の実現



国際社会の課題解決に貢献する競争力の高い大学として、キャンパス全体を国際的かつ包摂的な環境へ変革します。

グローバルマインドセットの涵養

英語を中心とした諸外国語運用力の強化と、留学・海外交流などグローバル体験の機会を大幅に拡充します。

キャンパスのグローバル化

多様な文化的背景を持つ留学生の受け入れを拡大。英語学位プログラムの改革や奨学金制度の再構築を進めます。

国際対応力の底上げ

研究成果の国際的発信力強化、職員の異文化理解促進、キャンパスサインや図書館の多言語化などを実施します。



5. 持続可能な社会の未来への貢献

🌐 SDGs達成に向けた推進

教育・研究活動を通じた貢献と、地域社会とのパートナーシップを拡大します。

- 「法政大学SDGs+2030アジェンダ」実行
- SDGs+レビューミーティングを通じた進捗管理（PDCA）
- 学生主体の活動の強化

▶ 2029年度時点で目標値(2030年次)の8割以上達成



⇒ カーボンニュートラルの推進

2025年発足の推進センターのもと、人材育成・研究推進・施設の脱炭素化を加速します。

- カーボンニュートラルロードマップの実行
- 研究推進と技術開発の促進
- キャンパス施設の脱炭素化

▶ 2030年代カーボンハーフの8割目途達成(2029年度末)



数値目標 (KPIツリー)

1. 基盤・リソース強化

組織・財務・環境

実質的な運用収入事業活動収入の3%
BCP安否確認回答率70%
多摩交通問題満足度現状比10pt以上向上

多様な人材・研究基盤

女性教員比率30% (クリティカルズ)
若手研究者(40歳未満)15%
外部資金獲得額/件数20%増(年5%)
産業界等との共同/受託研究20%増(年5%)

2. 教育・連携の実践

教学改革・入試

収容定員充足率1.00～上限1.10
Halo(学修成果可視化)利用率75%以上
全学共通プラットフォーム科目10科目以上
L-うち文理融合・自校教育計2科目
通信教育:初年次・キャリアプログラム参加80% / 75%

連携・ネットワーク拡大

大学間連携 / 高大連携新規3P以上 / 新規2P以上
通信制高校との連携年間10校以上
寄付者数増加毎年度7%増
後援会イベント参加/支部総会等単独開催20%相当 / 70%
校友会パートナー組織移籍1万人(4年間)
SCOLE参加学生800名以上(4年間)
リカレト教育受講者満足度90%以上

実践知教育の一貫性

付属校合同教育研究集会80%達成
付属校生の教育目標意識70%以上

3. アウトカム (社会課題解決)

グローバル環境

留学生出身国の多様化(上位2ヶ国以外)15%
外国籍・海外経験教員60%
留学生就職支援(情報交換/イベント)25社 / 47社

サステナビリティ

SDGsアジェンダ目標値8割以上達成
カーボンハーフ実現8割目途達成

4. 最終目標



法政ブランドの確立
「自由を生き抜く実践知」
体現感

90%

次期長期ビジョンの策定ロードマップ

2030年で「HOSEI2030」が期間を終えるため、本計画期間中に次なる長期ビジョンを策定します。

2027～2028年度

施策の具体化

教学、研究、社会連携、学生支援、組織運営の各分野において内容を具体化します。

2029年度

第四期中期経営計画策定

次期長期ビジョン実現のためのアクションプランとして第四期中期経営計画を策定します。

2026年度

方向性の決定

社会経済・18歳人口の動向予測を踏まえ、完成年度とその時の「あるべき姿」を定めます。

2028年度末

次期長期ビジョンの決定

重点課題を設定し、全学的な議論を経て次期長期ビジョンを決定します。